

都市景観賞を用いた景観類型に関する研究

- 福岡市都市景観賞作品を事例として -

蘇 明植

1. 序 論

1-1. 研究の背景と目的

都市景観と建築物の関係については、これまでも数多い学者が既往の研究で続けてなされてきた。建築物が都市のイメージや景観構成要素として主な役割をしていることは言うまでもない。今日、日本の各自治体では都市のアメニティや都市アイデンティティを求めると同時に市民主体の「まちづくり」を目指している。その景観改善方案の一環として数多いの自治体が都市景観賞制度を採択している。その内容を見ると、つまり建築作品が都市景観に一番大きな役割の中心に立っていると考えられる。本稿では、その住民参加の都市景観賞制度に着目して実際に過去14年間福岡市民によって都市景観賞に選ばれた景観作品を対象とする。現地の都市景観賞作品を調べてみると、敷地の規模や形態、そして周辺状況によって様々な景観構成形態を見せていることがわかる。従って、既往の研究の内容に基づいて本研究の対象になっている福岡市都市景観賞作品の景観類型を分析し、その類型と特徴を明らかにすることと市民が好ましく考える景観類型を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の対象

福岡市では「福岡らしい」個性と顔と魅力を持った町を育てるために、また地域に根ざした市民主体のまちづくりを目指して1987年に都市景観条例を定めることになった。また、その大切な取り組みの一つとして同じ1987年に都市景観賞が創設され、昨年の2000年までに14回を数えている。この14年間に毎年市民らに選ばれたのが101作品にのぼる。本研究では101の福岡市都市景観賞作品を対象とする。

1-3. 研究の方法

研究の方法としては、まず、福岡市都市景観賞全作品の受賞講評の内容で多く表現された景観要素に関する言葉及び景観イメージを抽出してその特徴を分析する。

次に、現地調査において都市景観賞受賞作品が建っている敷地と敷地周辺の空間構成要素や景観要素の情報を収集し、地図情報とともにデータ化する。そして抽

出されたデータを用いて数量化Ⅲ類分析方法を適用し、これによって得られたサンプルスコアを用いてクラスター分析を行うことにより都市景観作品の景観類型別にグルピングする。その上、各景観タイプの Group 別にカテゴリーデータを適用させ、その特徴を把握する。さらに、今までの14回の全作品を展示して好きな作品のアンケート調査を行い、市民の関心がある景観類型の分析を試みる。

2. 福岡市都市景観賞の概要

2-1. 福岡市都市景観賞の仕組み

(1) 都市景観賞の仕組み

市民からの推薦をもとに、福岡都市景観賞審査委員会の審査を経て毎年10件程度の作品や企画を表彰している。

- ① 一般表彰：福岡の個性的、魅力的な景観づくりに役立っているものとして建築物、街並み、造景そして造景物など
- ② 特別表彰：都市景観の魅力を高めている地域活動・イベント開催などの企画や行為。

(2) 都市景観賞作品（1987～2000年）の内容

- ① 受賞作品の概要：総101作品
- ② 作品の内容分類：
 - ・ 建築物；62、公園・広場；6、池；2
 - ・ 街路景観；4、環境設置物；11、橋；2
 - ・ 並木；3、行事・行為；8、雑誌；2
- ③ 地域別の分類
 - ・ 中央区；42作品
 - ・ 東区；11作品
 - ・ 早良区；17作品
 - ・ 博多区；18作品、
 - ・ 城南区；4作品
 - ・ 南区；4作品
 - ・ 西区；1作品、
 - ・ その他；4作品(地域該当なし)

2-2. 都市景観賞作品で見る景観要素

ここでは、景観賞を受賞した作品の受賞講評で言及された内容の中で景観要素に関する言葉を景観要素抽出した後、4つの項目に分類した。その結果が下記の<表2-1>である。まとめると、自然の項目が38%として一番の高い値を示している。

この結果から要約すると、福岡市の場合、都市景観賞に選ばれる基準として、自然要素は重要な役割を果たすことであるといえるだろう。

＜表 2-1＞受賞評で言及された景観要素

大分類	頻度	比率	小分類	言及された要素
街並み	13	12%	街並み (13)	/ 街並み (8)、ランドスケープ (2)、湾 ノード 橋脚点 (2)
建築	33	31%	建物 (17) 造物 (5) ランドマーク (1)	/ 円柱 フォーム (2)、壁面 (3)、表 アーチ エントランス色 (7)、威厳 / 彫刻 (4)、外観殺 / ウォーターフロント、シボレ (3)、ランドマーク (4)、 イメージ、スポット
自然	40	38%	緑 (17) 水 (12) 光 (2) 山 (1) 敷地形状 (8)	/ 樹木 (4)、造園 (3)、植栽 (2)、緑 (4)、公園 (4) / 海 (6)、海辺 (2)、川 運河 湖池 / 光 (2) / 背割山 / 高台 坂 (2)、隣地 (3)、湖池地 三形
空地	19	18%	空地 (13) 庭 (6)	/ 広場 (10)、遊場 オープンスペース (2) / 中庭 (4)、庭 (2)
小計	105	100%		

2-3. 景観賞作品で見る景観イメージ

景観賞作品の受賞講評の中で言及された景観イメージに関する言葉を抽出し、意味別に分類した。その結果が＜表 2-2＞である。内容を分析してみると、よく言及された景観イメージとしては、独創性・変化の項目が17%を示している。次に目立つ項目は、快適な、楽しい、明るさなどの快適性を表す景観イメージとして15%を示している。そして造形性・テクスチャ（立体感、荒いなど）11%、沈着性（落ち着く、静かななど）10%、洗練味（美しい、洗練など）9%、

表2-2都市景観賞作品の景観イメージ

意味分類	頻度	比率	表された景観イメージ
調和	11	8%	調和の調和 (3)、シブい感じ、調和的、一纏め、縦横 有機的 統感 ふさわしい
快適性	21	13%	潤を添える 温かい (2)、快適 (3)、鮮やかに (2)、豊かな 明るさ (2)、温かい 明快 安心 微笑み、くづき 快、清潔 軽感 暖かい
独創性 変化	25	17%	目立 (2)、個性的 (4)、個性 発露 (2)、個性的 大胆な 発露 (2) 周辺に比 新しい (4)、雑な (3)、変 (3)、異感 面白い
単純簡潔	9	6%	単純 (3)、簡潔 シカな (2)、微細 (2)、シャープ
躍動性	11	8%	積極的 躍動的 リズミカルな アクティブな 若さ 強さ、アクセント 力強い、ときめき 元気 躍動感
沈着性	15	10%	落ち着 (2)、端整 (2)、静かな (3)、可憐 (1)、ひっそり建、誠実
洗練味	13	9%	美しい (3)、繊細洗練 (2)、素晴らしい やさしさ チャーミング 品がある 優る (2)、魅力的 風格
造形性 テクスチャ	16	11%	威厳 立感 (3)、大さ、存在感 (2)、厚み (2)、厚み 扇状 重厚な、重厚 伸びやかな 滑らか、やわらかい
開放感	3	2%	開放 (2)、広さ
伝統・様式	13	9%	ヨーロッパ風 (2)、東洋 古典的 (2)、モダン (2)、異文化 (2) バリエーション (2)、歴史 (2)、ふるさとの情景 スマイル風
現代的	3	2%	現代的 (2)、モダン
色・光 自然	4	3%	色合い、キラキラ輝く、絵画 自然感
	144	100%	

伝統・様式（ヨーロッパ風、歴史の香りなど）9%、調和（周辺との調和、一体感など）8%、躍動性（積極的、挑戦的など）8%、単純・簡潔（単なる、シンプルな等）6%、色・光・自然（色合い、キラキラ輝くなど）3%、現代的2%、開放感がある2%の順番であった。この結果からみると、福岡市都市景観賞作品の代表する景観イメージは「独創性・変化がある」と「快適性がある」（合計すると32%）ではないだろう。

3. 都市景観作品の現況調査

第3章では、福岡市の都市景観作品の現地調査を行った結果を考慮しつつ、次のように3つの項目に対する基本現況を調べる。

- ・「立地形態の現況」
- ・「外観形態の現況」
- ・「建築思潮の現況」

特に、都市景観賞を受けた作品らがどのような建築思潮に沿っているのかを調べる。

3-1. 都市景観賞作品と建築思潮

ー建築思潮の分類コードと基準

(1) 日本伝統式：J

Jo(Japan Original)

- 建物の構造(木構造)、材料等が伝統的な日本式形態をそのまま再現している形態。

Ja(Japan Application)

- 日本伝統式の応用した形態
- 現代的材料を使用しているが日本式形態に従う意志が見える形態

(2) モダニズム：RM

Mo(Modernism Original)

- 機能主義、国際主義様式と呼ばれているモダニズム系列の形態に従っている形態（一般的にはフラットな形態が含まれる）

Mc(Modernism Continuation)

- 部分的な変更がなされていてもモダニズムの延長線上にある形態

(3) ポストモダニズム：RP

Ph (Post Modernism History)

- 過去の古典様式をそのまま引用した形態。

Pc (Postmodernism Complex)

- 古典様式要素を変用したり、部分的に引用したりする形態。三角形天窓、円筒型屋根等。

(4) 表現主義系列：RE

Ef1(Expressionism Form)

- 人間、動物、植物などの形を隠喩した形態。

Ef2 (Expressionism Form)

- 六面体、円錐など単純幾何学的な形態、結晶体的な形態。

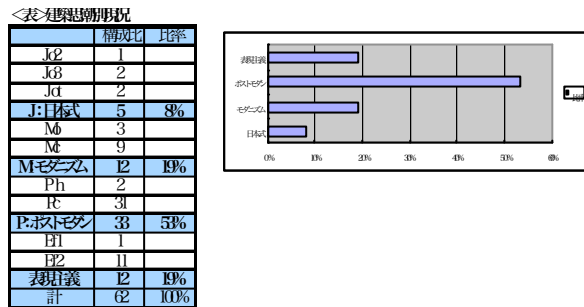
Ei(Expressionism Image)

- イメージ主義、宗教的象徴主義系列の形態。

3-2. 建築思潮の単純構成比現況

福岡市景観賞作品の建築思潮を前述の分類基準方法に従って調べた結果、日本式8%、モダニズム19%、ポストモダニズム53%、表現主義19%を示している。この結果から見ると半分以上の作品がポストモダニズムの傾向を見せていることがわかる。

<表3-1>建築思潮の現況



<図3-1>構成比グラフ

4. 福岡市都市景観賞作品の景観類型分析

ここでは、1) 視点場と視覚要素、2) 作品周辺(100半径)の空間要素、3) 隣接する空間要素、4) 道路・配置・敷地の形態と4つの内容に分類し、11項目60カテゴリーを抽出し、このカテゴリーデータを用いて数量化Ⅲ類分析を行い、その分析から導かれたサンプルスコアを利用しクラスター分析方法を行う。以上の方法により都市景観賞作品の景観類型化とその景観的特徴を分析する。

(1) Group 1 : 市街地角地型 (17点)

Group 1の景観類型の特徴は、視点場になりうる要素は前面の道路上であり、市街地に位置して2面以上の道路を持っている。また、対象作品の隣にも平均距離 S6m~50mの道路又は空地が存在している。以上の特徴から見ると Group 1は、市街地角地型であると言えるだろう。



No.56. KIKI PLACE



No.31. ササビーハウス

(2) Group 2 : 市街地単独型 (13点)

Group 2は、全てが平地に位置しており、全作品が

2面以上の道路に隣接している。また後背には町並みが添景として存在している特徴がある。これによって、Group 2は、市街地単独型であるといえるだろう。



No.5. 福岡シティ銀行本店



No.10. 西日本渡辺ビル

(3) Group 3 : 海岸単独型 (3点)

Group 3は、サンプルのすべてが一般道路と離隔されているし海岸敷地にあることがわかる。また周辺が公園などの空地や緑に囲まれて隣には海が存在するのが特徴である。それゆえ Group 4は、海岸単独型であると言えるだろう。



No.6. ホテル海ノ中道



No.41. マリンワールド

(4) Group 4 : 市街地水辺隣接型 (6点)

Group 4は、サンプル全てが前面に空地を持っているし後背には添景になりうる要素を持っていることがわかる。また隣に必ず水又は緑公園が存在するのが特徴である。以上より Group 4は、市街地水辺隣接型であると言えるだろう。



No.30. 博多埠頭ベイサイド



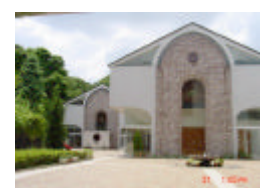
No.59. 保険事務センター

(5) Group 5 : 郊外傾斜敷地型 (6点)

Group 5は、サンプルのすべてが郊外に位置しているし、ほとんどが隣に緑要素を持っていることがわかる。また83%のサンプルが傾斜地に建っているし、隣に緑要素が存在している。以上の特徴から判断すると、Group 5は、郊外傾斜敷地型といえる。



No.43. 大池の家



No.44. 双葉幼稚園

(6) Group 6 : 狭街路隣接型 (6点)

Group6は、サンプルのすべてが10m以下の道路似隣接していることがわかる。また平地に位置しながら添景になりうる要素として町並みのスカイライン要素もっている。さらにサンプルすべてが市街地連続配置形態を見せている。その特徴から見ると、このGroupは狭街路隣接型であると言える。



No.17 ジョーキュウシ社屋



No.29. DADA ビル

(7) Group 7 : 郊外前面広場型 (11 作品)

Group7は、サンプルすべてが前面に空地を持っており、添景には街並みが存在していることがわかる。またサンプルのすべてが郊外の平地に位置していることから考えると、Group7は郊外前面広場型であると考えられる。



No.57. 福岡高等学校



No.58. 九大事務局

5. 市民アンケートと景観類型グループ

5-1. アンケート調査と抽出方法

ここでは、2001年10月27日(土曜日)、天神地下街で全14回の景観賞作品を展示したイベントコーナーで行われたアンケート調査結果の資料を利用する。その中で、好きな景観アンケート結果と7つの景観類型グループとの間の関連を考察し、市民にとって最も関心の高い景観類型を把握する。

5-2. アンケート調査の結果

(1) Group1の作品数は、17点であり、サンプル全体の中で27.4%を示しているが、これに比べてアンケートではそのグループを選んだ人が54人で10.9%に過ぎないという結果を示した。(作品当りの平均選択人数: 3.2人)

(2) Group2の作品数は、13作品であり、サンプル全体の中で20.9%を示すが、市民の選ぶ好きな景観のアンケートでは140人の選出があり、全体の28.2%となっている。このタイプは注目値するタイプである

と考えられる。(作品当りの平均選択人数: 10.8人)

(3) Group-3の作品数は、3作品であり、全作品に対する構成比は4.8%を示している。しかし、好きな景観のアンケートによれば104人に選ばれており21%の高い構成比を示した。この結果から見ると、Group3の景観類型が市民らにとっては望ましい形態である可能性が高いと考えられる。(作品当りの平均選択人数: 34.7人)

(4) Group-4の作品数は6作品であり、全景観賞作品に対する構成比は、9.6%となっている。しかし、好きな景観のアンケートでは76人に選ばれており15.3%という比較的高い構成比を示した。(作品当りの平均選択人数: 12.7人)

(5) Group-5の作品数は6作品であり、全景観賞作品に対する構成比は9.6%となっている。しかし、好きな景観のアンケートでは26人に選ばれて構成比は5.2%と最も低い値を示している。(作品当りの平均選択人数: 4.3人)

(6) Group-6の作品数は、6作品であり、全景観賞作品に対する構成比はGroup4、5と同じように9.6%となっているが、好きな景観のアンケートでは42人に選ばれ、その構成比は8.5%に過ぎない。(作品当りの平均選択人数: 7人)

(7) Group7の作品数は、11作品であり、全景観賞作品に対する構成比は17.7%となっているが、好きな景観アンケートの選出結果は54人とその構成比は10.9%に過ぎない。(作品当りの平均選択人数: 4.9人)

6. まとめ

本研究で明らかになったのは、対象の福岡市都市景観作品の景観類型とその特徴、都市景観作品の景観要素、および市民が好ましく考える景観類型グループである。しかし、今回の研究で適用した分析項目のデータは立地的要素に傾けた傾向があるので、考慮する余地が残っている。また、一層客観的な都市景観類型分類とその特徴を分析するためには、重要な要素の1つである建築物の造形を扱わなければならないと考えられる。今後には、街並みで一つの景観作品を中心とする範囲だけではなくその作品が位置している連続的の街路単位の景観属性まで分析する必要があると思われる。すなわち、ある範囲の街路に連続的建っている建物物の中で新しい造形の建物が生じたりなくなったりすることによって街並み景観は大きな変化を見せるはずなので、都市景観と建築造形の相関性についての分析が必要であろう。